

第108回役員会・第46回経営審議会 議事要録

日 時：2018年11月28日(水)10：00～

会 場：大学本館 E-701 会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、片山理事、柳井理事、梶原理事、田上理事
井上委員、今川委員、上田委員、柏原委員

(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

議 案

- 1 平成30年度北九州市立大学教職員の給与改定等について

報 告

- 1 法人評価委員会の評価結果について
- 2 i-Design コミュニティカレッジの募集について
- 3 平成29年度卒業生の実就職率ランキングについて
- 4 平成30年度卒業予定者の就職内定状況について（平成30年10月1日現在）
- 5 研究不正に係る対応状況について

議案1 平成30年度北九州市立大学教職員の給与改定等について

<質疑応答>なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

報告1 法人評価委員会の評価結果について

<質疑応答>なし

報告2 i-Design コミュニティカレッジの募集について

<質疑応答>

[理事]

○3つの領域は、どのような考え方で設定されたのか。

[副学長]

○このプログラムを開設するにあたり、インターネットでニーズ調査を行った。比較的ニーズが高い分野で、本学が提供できるコンテンツを中心に初年度は3つの領域を開設し、今後はいろいろなご意見を伺いながら内容の充実や差し替えなどを検討していきたいと考えている。

[委員]

○3つの領域で昼間に開講されるものと夜間に開講されるものがあるが、ターゲットとする方々によって時間を調整しているのか。

[副学長]

○元々はアクティブシニアを対象とした社会人教育の充実を検討したため、定年を迎えたアクティブシニアは、昼間に時間があるだろうということで「学問と人生」、「地域創生」の2つの領域を平日昼間を中心としたプログラムとして計画した。一方で心理学については、特に30代・40代の女性のニーズが多かったので、「こころの科学」については、主婦の方だけでなく現役で働いている方も受講できるよう、夜間を中心のプログラムにしようと計画した。

[委員]

○私の先輩たちも退職後にこういう場に好んで行かれ、大学に通っている間は充実感を持って活動されているが、終わってしまうとフェードアウトしてしまうことが多いようだ。せっかくだから後に繋がるような仕組みを考えて、学んだものが後々まで自己実現に役立つようなプログラムになればいいなと思う。

[委員]

○前回は質問したが「地域創生」の領域は、市の夢追い塾と重なる部分があるがその部分をどのように考えているのか。

[副学長]

○この領域は、地域創生学群が中心に担当する予定である。現在、地域創生学群が行っている様々な実習において、学生のアドバイザー的な役割ができるようなアクティブシニアの方を養成したいと考えている。「地域創生」のプログラムで基本的なことを学んだアクティブシニアの方にご支援いただいたり、逆にアクティブシニアの方からこういう課題が街にあるから学生に取り組んで欲しいと提案していただいたりというような、相互作用がこのプログラムの中から生まれればいいと考えている。夢追い塾との完全な差別化は難しいかもしれないが、本学が持っているコンテンツの中で且つアクティブシニアの方が持っている経験や知識を地域に活かしていければと考えている。

[委員]

○広報という観点から、表紙のインパクトはすごいなと思う。中を開いて具体的に見ていく際、ターゲットに対しての見せ方が曖昧と感じた。出願資格が25歳以上とあるが、アクティブシニアと25歳以上という部分にギャップがある。大学としては門戸を大きく開いているということは大事だが、社会人の学びの場をこういう形で提供するという部分の具体性がもう少し見えると、勉強したいなと思っている方や何かできることがあるのではないかと考えている方に伝わりやすいと思う。学んだことが具体的にどう活かせるのかについて、学んだ方が今後それぞれ開拓されていく部分かもしれないが、人材やパイプなど市が持っている資産をこの大学が把握しているというようなメッセージが少しでも入るといいと思った。

[理事長]

○この意見も踏まえて取り組んでもらいたい。

報告3 平成29年度卒業生の実就職率ランキングについて

<質疑応答>なし

報告4 平成30年度卒業予定者の就職内定状況について（平成30年10月1日現在）

<質疑応答>

[委員]

○就職率が上がってきており、この部分に力を入れていることや細かいデータというのは非常に有効だと思う。今後、人口が減り学生数が減る中で就職率は上がってくると思うが、就職率だけを見ていくのは違うのではないかなと思う。社会の中で価値を生む人たちを育てていく中で、大学と社会の間に大きな溝があると思っている。社会に送り出す人たちに求められる役割が、社会情勢の変化に伴って変わってきているのではないかなと思うが、これに対して意見を聞かせていただきたい。

[理事]

○大学では高大連携ということで、高校と大学の連携についてはかなり力を入れて色々な取り組みを行っているが、企業と大学の関係では、いわゆる産学連携でものづくりであるとか技術であるとかが中心となり、人材育成の部分はかなり弱いと思っている。キャリアセンターとしては、就職して2～3年で離職や転職をしやすいという課題に大学として関与できないかなと考えている。12月に大手企業に就職して3年目ぐらいの方を集めて本学の学生と働き方について議論していただくというイベントの開催を予定している。これは、学生の就職活動の支援だけでなく、企業に人材育成の役割を再認識していただくことも視野に入れており、就職した人材に

対して、大学がもう少し関与していくという姿勢が必要という考えから少しずつ取り組み始めているところである。現在、実態の把握が十分にできていないので、今後アンケート調査やヒアリング等を行う必要があると思っはいるが、コストとマンパワーの問題があり難しい状況である。将来的にはそういったことを取り組んでいければと思っはいる。

[委員]

○追跡調査が本当にできればいいが、なかなか大変なことだと思っはいる。既にやっはいると思っはいるが、企業で活躍されている卒業生の話積極的に聞く機会を作るのは、学生にとっはいても卒業生にとっはいても刺激を受ける機会を与えるいい取り組みである。年何回やればいいというのではなく系統立てて、卒業生らに力を借りながら学生たちに夢を与えるような仕組みが必要だろう。

[副理事長]

○現在は、大学に人材育成の役割が期待されるようになっており、大学でもキャリアを意識した教育やインターンシップに力を入れている。大学としては学問を身に着けていただく部分があり、実学的なところはキャリアと結びつくところがあるが、必ずしもそうではないリベラルアーツな部分についてもしっかりと身に着けていただくということも必要である。教養を持った上で社会に出て働くことの大切さを学生には理解してもらいたい。時代の変化に応じてどう対応していくのか考えていく必要があり、委員の皆さまから意見を頂くのは大変ありがたい。

[委員]

○資料を拝見して面白いなと思っはいたのは、就職率に反映されないその他の部分に1人であるが起業予定というのがある。多様性のあるいろいろな学生がいる大学で切磋琢磨して人間性を豊かにしていく中には、教養も含まれ、社会に出て強く生きていく力を育てるということに繋がるだろう。日本には起業という精神が根付きにくいということがあるようだが、そういう学生を1人でも育てていけるとということも、この大学にとっはいる魅力や強みではないかなと思っはいる。

[委員]

○就職した3割が3年ぐらいで離職している。学力があっはって適応力もある人材でも、生きる力や自分のことをもうちょっと深く掘り下げて考える力が身に着いていないと犠牲になっているようだ。こういう人たちを何とか救いたいと思っはいる。

報告5 研究不正に係る対応状況について

<質疑応答>なし